

ONAIR

NO. 102

放送大学通信 オン・エア

発行月 2011年6月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)

CONTENTS

学位記授与式	1
学長就任のご挨拶	6
就任・退任のご挨拶	7
学園ニュース	13
第3回エッセイコンテスト	14
学部・大学院開設科目紹介	16
インフォメーション	20

「学長式辞」に代えて

前学長 石 弘光

—卒業生・修了生の皆さんへ—

卒業生の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。本学の教職員一同を代表し、心よりお祝い申し上げます。本来このお祝いは、3月26日にNHKホールで挙行されるはずであった学位記授与式で、申し上げるべきことでした。この学位記授与式には、文部科学大臣、総務大臣をはじめ多数のご来賓をお迎えし、全国各地より2000名を超える卒業生ならびにご家族の方々が参集され盛大に挙行される予定になっていました。

しかしながら、3月11日に突如発生した東日本大震災により、この学位記授与式は中止をせざる得ない状況となりました。いま被災地を中心に東日本の各地は、巨大地震、大津波、そして原発事故の三重苦に喘いでおります。放送大学の学生の皆さんのうち、被災された方も多数いらっしゃるでしょう。また不幸にして災害の犠牲になられた方もいらっしゃるかもしれません。心よりお見舞いとお悔やみ申し上げます。といったわけで、「学長式辞」として用意した内容を以下、本日卒業される皆さんにお話ししたいと思います。

放送大学は1983年に創設され、ラジオ、テレビ、そして最近ではインターネットを手段に、遠隔教育による生涯学習機関として、これまで順調に発展し

てきました。英語の名称をThe Open University of Japanと称しているように、世界の広がりの中

ではわが放送大学は、国際的にOpen Universityとして位置づけられています。現在この地球上にはほぼ70か国が、このOpen Universityを保有し、国民の誰でもがいつでもどこでも、学べる体制を作り上げております。世界での学生総数もおそらく数千万人の規模となっております。放送大学の皆さんも、自分たちと同じような境遇で学んでいる仲間が、海外でこのように多数いるのだと知ると心の励みになることと思います。

私はこれまで数多くの機会に、直接・間接に世界各国のOpen Universityの現状を見てきました。わが放送大学は、世界中のどこの国のどのOpen Universityと比較しても、教育プログラムの内容、教授陣の質、提供している教育サービスの水準などで遜色ありません。このように国際的に非常に水準の高い遠隔教育の大学で、皆さんは生涯学習を受けてきたことを大いに誇りに思ってください。

さて皆さんが放送大学で、学習を続けてこられたこの期間、日本は国の内外で解決の困難な多くの問



題を抱えてきました。一言でいうと、われわれの周りには閉塞感が漂い、先行きが見えない将来への不安、そして経済の停滞が続く現状に対する不満が渦巻いています。失われた10年とも20年ともいわれるこの時期に、お隣の中国は着実に成長をとげわが国を追い越し、世界でGDP第2位と経済大国に浮上してきました。国際的にも日本のプレゼンスつまり存在感が薄れ、外交・安全保障の面でも幾つかの問題に当面しています。また地球的規模での環境悪化も懸念されております。

いまわれわれ日本人が当面する最大の問題は、日本の目指すべき将来の方向が定かでなく、共有すべき価値観が存在しないということでしょう。明治維新後、世界の列強に囲まれる中、近代化を目指し仰ぎ見たときに青空に浮かぶ「坂の上の雲」を追いかけて国を挙げ努力した一体感、また第2次大戦後灰燼と帰した国土から不死鳥のように蘇り、世界の経済大国の仲間入りをしたあの国を挙げての気概が、いまやすっかりわれわれの身邊から消え失せています。残念なことに日本ならびに日本人に、将来のビジョンを構築し、進むべき指針を示してくれる識者も、身近に見当たりません。

何故現在、このような状況になったのでしょうか、真剣に議論する必要があります。何人かの研究者が、今日日本人の多くがしっかりした教養教育を身につけておらず、西洋古典や漢籍に根ざした人類に共通する知的遺産に基づく素養を欠いて思考をしているためだと指摘しています。私もこのような見解に大賛成です。現代のパソコンやケイタイの普及により、著しく書物とはなれた現代人の生活態度を見るにつけ、その思いをより一層深くします。つまりこのような古典的な教養を欠くと、マニュアル化できない、定型化できない現象に見舞われたときに、長期的な視点から体系だっただけに的確に解決の方向を探れないということになります。

この病根を絶つには、再度国をあげて教育のやり方を変え、われわれは教養教育をベースに学びなおす必要があります。豊かな感性に根差した教養を身につける必要があるのです。

皆さんは、このような大きな社会・経済問題が顕在化する中で、放送大学で学んできたわけです。卒業

されるこの機会にはなむけの言葉に代え、次の2つのことを皆さんにお話ししたいと思います。

まず第1に、「生涯学ぶということ」はどんなことを、具体的に意味するかということです。皆さんの放送大学へ入学される動機は、実に様々です。「学位を得たい人」、キャリアアップのために「資格を得たい人」と並んで、「より知識を身に付けたい」、「自分の教養を高めたい」という方も多数おられます。共通していえることは、学ぶことに喜びを見出し、生涯できたら学びを続けたいと願っている方が非常に多いということです。

放送大学は現在、アメリカ、イギリス、中国、韓国などの有力な Open University と学術交流協定を結んでおります。その中の1つ、アメリカを代表するOpen UniversityであるThe University of Maryland University College (UMUC) の卒業式に、私は毎年招待され出席しております。昨年4月、大変感銘深い出来事に遭遇いたしました。卒業生のお1人で、84歳になるGrace Lawrenceさんというご婦人の学生が、ジャーナリズムで学士号を取得されました。そして卒業にあたり、次のような感想を述べられているのを知りました。

“I wanted to do something with my life and see different things”

(私は自分の人生で何かがしたかったし、そして別の異なることを見たかった)

本日卒業される皆さんも、入学そして卒業される過程で自分の生涯でsomethingを得たことでしょう。またその結果として、different thingsも見付けられたことと思います。それが何であったか、いまご自分の胸に問うていただきたい。これがおそらく、「生涯学ぶ」ということに通じるのだと思います。

放送大学において本年度も、5コースすべて履修され、晴れてグランド・スラムを達成された方が14名いらっしゃいます。最高年齢の方は、千葉学習センター所属の85歳の上月皎さんです。これまでのグランド・スラムの総数は、実に74名にのぼります。皆さんの生涯学びを貫かれたその姿勢に、まさに深い感動を覚えています。

第2に、さらに議論を深め「学ぶということ、学問するとはどんなことか」を、ここで考えて見たい

と思います。学問をするということは、過去の技術についての知識を単に集め、覚え込むということではありません。19世紀から20世紀にかけドイツで活躍したあの著名な社会学者であり経済学者であるMax Weberは、その著書『職業としての学問』の中で、単に知識を集めるだけの行為を「八百屋の女主人がキャベツを売るのと同じだ」と評しています。そうではなく「学問はものを考えるための方法を提示し、そのための道具と訓練を提供してくれる」としています。

皆さんは、放送大学で印刷教材、放送教材を用いて各科目の単位を修得し、面接授業で学んでこられました。そのかたわら、また先生方のご指導を得て論文作成、卒業研究を通じて、学問をするための思考力、基礎力を身に着けたはずです。このことはおそらく、皆さんは明確に、自分で意識していないかもしれませんが。しかしながらこれまでの放送大学の学習の中で、われわれの世界で生起する様々な新しい問題の解明をめざし、自分で考え分析するだけの潜在的な能力を、大なり小なり養ってきたはずです。森羅万象のあらゆる現象を解明するためには、単に過去の知識を集めるだけでは物事の本質に迫れません。おそらく自分でこれまで体験しない問題に遭遇しても、どのような形で課題を設定し、それに関連する資料を集めそしてどんな手法でそれに接近した

らよいのかを、放送大学で学んできたはずですが、まだ十分とは言えないかもしれませんが、このような姿勢こそが、学問をする態度なのです。

以上、生涯学ぶことの意義、そして学び方の手法の2点についてお話をしました。昨年も申し上げましたが、卒業式は「終わり」を意味するのではなく英語でcommencement ceremonyといわれるように、「始まり」を意味します。今日から、どうか生涯学びを続け、修得した学び方で、これから当面するであろう様々な問題を解決するべく、努力してください。

本日は、皆さんの旅立ちの日でもあります。引き続き、放送大学で別なコースに移られ再度勉学を始められる方もいらっしゃると思いますが、多くの方々が学習センターで生活を共にした教職員、仲間と別れを告げ、各人の道を歩まれるわけです。中国の宋代を代表する詩人蘇東坡が、「人生、離別無くんば、誰か恩愛の重きを知らん」といってます。本日は皆さんにとって、人生の離別の1つを体験されています。どうか放送大学での様々な体験の重みを噛み締めて、旅立ってください。そして今後、出来得れば同窓会の活動を通し、皆さんの母校である放送大学といつまでも関わりを持っていただきたいと念じています。

皆さんのこれからのご健闘とご健勝を心より祈り、「学長式辞」に変え「卒業生に送る言葉」といたします。

同窓会代表祝辞

森岡 加代

皆様、御卒業おめでとうございます。同窓会一同、心よりお祝い申し上げます。

今日のこの日を皆様がどんな気持ちで迎えられたか、同じ体験をした私たちの心も今、喜びに満たされています。自分自身と戦った日々、学ぶ喜びに目覚めた瞬間、良き師と友を得て学びを楽しみ、辿り付くことのできる至福の時を満喫されていることでしょう。それは何物にも換え難い宝物を得られたからです。放送大学の特徴であるリピーターは、更なる宝を求める者の姿であり、放送大学は宝の山です。

そして放送大学の学生の凄さは、この学びを下支えする豊

富な社会経験を持っていることであり、また放送大学の真の実力は、この学生とリピーターと卒業生を有し日本全国に50の学習センターと7つのサテライトスペースを持っていることです。これらを活用すればどれほどのパワーが生まれることでしょう。私たちはこれを「宝の持ち腐れ」にしてはなりません。

卒業式を目前にした3月11日、日本は未曾有の大震災に見舞われました。今は正直、どうしてよいのか分からない状況にあります。私たちの同胞は日本全国にあり、被災され



た方も少なくないでしょう。それを思うと胸は張り裂けんばかりですが、悲しみにばかり浸っているわけには参りません。今こそ私たちは、手にした宝を寄せ合い、全国の学習センターを拠点としてそれらを繋ぎ、力に変えていくときではないでしょうか。

その場として、卒業後は同窓会を活用していただき、放送大学の輪を広げ、強く結んでいこうではありませんか。

終わりにあたり、今日ここで皆様に同窓会代表としてお祝いの言葉を述べる場をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

謝辞

教養学部卒業生代表 人間と文化コース **長田 志乃舞**

このたびの、東日本大震災の被災を受けられた皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。平成22年度に卒業・修了しました私たちにとりまして、深く心に残ります卒業の季節となりました。

放送大学は、現役の時にやり残したことがあったと後になって気付いても、その時の忘れ物をもう一度探す機会を与えてくれる、私たちの可能性を引き出してくれる場でもあると思っています。

私が、在学中に特に深い発見が与えられたのは、卒業研究の履修によってでした。卒業研究は、美学・芸術学がご専門であらせられます青山昌文先生のご指導のもとで、私たちゼミ生はそれぞれの素材を上手く引き出していたきながら、皆自分たちの関心分野を、自由に、安心して、とてもやりがいを持って探求し得られました。先生の、厳しくも温

かいご指導に惹かれる学生はとて多いです。今後もアカデミックなご指導を心から望んでおります。また、所属学習センターの、朝野前所長先生にも陰ながら支えていただき、本当に多くの方々の支えがありまし



た。お陰で卒業出来ましたことを、心より感謝しております。

この春からは放送大学大学院で学ばせていただいておりますが、私の住む地域でも、地震の被害は少なくありませんでしたことと、まだ余震も収まりません状況ですので、3月11日以降、学問に取り組む時間がない方も多くいらっしゃることを実感しております。一日も早く被災地の皆様の生活が安定し、私たちの学んでいることがそれぞれに与えられた場所で活かせ、未来への希望の輪が繋がり広がることを願ってやみません。

謝辞

大学院修了生代表 社会経営科学プログラム **坂野 三輪子**

まず冒頭に、東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。この大震災の影響により学位記授与式は中止となりましたが、それ故、なお一層印象深いものとなりました。

さて、私は職場での環境部局への異動がきっかけで入学し、課題研究では「家庭の廃食用油からのバイオディーゼルオイル精製は本当に環境に良いのか」について取り組みました。各家庭からはごく僅かしか発生しないものを集めるのではなく、いっそう使い切れれば良いと考えたのです。過去の研究を調べ栄養や健康に対して影響がないことを確かめました。また、住民アンケートで実際の使い方や意識も調べました。その結果、今、私は自信を持って揚げ油を使い

続けようと呼びかけることが出来ます。

この学問的な知識のほかに、時間と人という2つの大切なものを得ることが出来ました。学習時間を確保するには手早く済ませるだけではなく、物事に優先順位をつけて時には目をつむり諦める勇気も必要です。そのようにして時間を獲得することが習慣となりました。また、私が属しました鈴木ゼミ、アンケート調査でお世話になった市民グループや市町村担当者等の多くの方との出会いは私の宝物です。



最後になりましたが、諸先生方や職員の皆様に私たちの学習を支えていただいたことに、心より感謝申し上げ、皆様のご健勝と放送大学のさらなる発展をご祈念いたします。

岩手学習センターでの 学位記授与式

岩手学習センター所長 齋藤 徳美

3月11日、東北地方太平洋沖地震により、岩手県では三陸沿岸で8千5百名以上の死者・行方不明者を数えるなど大きな被害を受けました。被害にあわれた学生さんも少なくありません。

予定されていた「学位記授与式」および「入学者の集い」は開催が難しい状況でありましたが、長年勉学



授与式に臨む修了生及び卒業生



式典で激励する齋藤所長

に勤しんだ成果の証である学位記は直接手渡したいと考え、4月2日、学位記授与式のみを挙行了しました。修士全科修了生3名、学部卒業生26名のうち、16名が出席しました。

授与式に先立ち、出席者全員が震災でなくなった方への黙祷を捧げました。地域防災が専門の小職は、放送大学で培った知識と知恵を社会に生かし、震災への復興にも貢献するよう修了生および卒業生を激励しました。

山口学習センター 学位記授与式

山口学習センター所長 松浦 満

放送大学山口学習センターは、これまで長く親しんでいた、山陽小野田市（山口東京理科大学構内）から、山口市（山口大学吉田キャンパス内）に移転しました。新学習センターは山口大学キャンパスの中でも最も風光明媚な場所に位置し、周囲には桜の木々等が占めるなど、最適な学習環境です。このような環境のもと、また、桜が咲きほこるなかで、2010年度第2学期学位記授与式は、石学長メッセージ、来賓山口市長代理を迎え、4月3日（日）に

挙行し、教養学部の卒業生28人と大学院の修了生2人に卒業証書・学位記を授与しました。一人ひとりに学位記を授与した後、お祝いの言葉として、「社会



学位記を授与する松浦所長

での様々な形の活動のかたわら、放送大学の学びを生かしながら、勉学に励み、卒業・修了に至ったことは大変なことで、心から敬服します。今後も情熱を持って新たな夢に向かって取り組んで頂きたい」と励まし、また、この度の東日本大震災にもふれ、「私たちの生き方で人類の歴史にとっての転換点を感じさせます」と挨拶をしました。

山口学習センターの学位記授与式は、在学生、入学予定者も含め、約100人の出席者からの暖かい祝福に包まれ厳粛のなか終了しました。

放送大学の 情報化を目指して

学長 岡部 洋一

2011年5月1日、前任の石先生のあとを継いで学長になりました。それまでは石先生のもとで4年間、副学長を勤め、主として情報、放送、人事などの総務の仕事などをしてまいりました。

1962年に入学して以来、2006年までずっと東京大学において、電子工学に従事し、マイクロ波、電子デバイス、脳磁場解析、脳型コンピュータなどの研究をしてきました。この間、先端科学技術研究センター長を勤めました。特に定年までの最後の5年間勤めた情報基盤センター長がその後の放送大学での仕事の方向を決めたように思います。次の仕事を探したところ、放送大学で、情報系、特に、教育の情報化の専門分野の教員を探していることがわかりました。当時の放送大学は、教育のほとんどを放送と郵便にのみ頼っていました。私は教育の「双方向性」を強化するために情報化を推進すべきであるということを主張し、放送大学へ採用されました。

採用と同時に、当時の学長の丹保先生より、情報化という言葉に関するあらゆることを依頼されました。学内ネットワーク、事務電算化などの情報基盤の整備、Webに代表される情報公開の改善、教育の情報化などです。これは大変ということで、学園内に情報化推進本部を設置させていただきました。特



に、何人かの若手教員、情報および放送関係の

職員には多大の時間を割いていただきました。この方々の力がなければ、情報化の推進は不可能だったのではないかと思います。

最初に実施したのが、教務システムWakabaの立ち上げでした。やや不出来だったと反省してはおりますが、一応、学生に対し、かつてよりはリアルタイムの情報が伝わるようになったと理解しております。次のチャンスにより柔軟なシステムに変えていこうと思っております。ほぼ同時にラジオのネット配信を開始しました。テレビのネット配信については、今迄一般大学では経験しなかった著作権を含む権利処理の問題に直面しました。想像よりお金がかかることがわかり、新規科目作成にあわせて配信を開始する方法により、2014年にはほぼ全科目の配信が可能となる予定です。教育の情報化については、通信指導問題のWeb化、教員や学生とのコミュニケーションを密にする電子掲示板の設置など、システム的にはすでに完成しましたが、本格的実施にはまだ問題を感じています。高齢学生の多いこともあり、情報リテラシー教育、つまり情報を巧みに利用できるようにする初心者教育の実施、教員の負担の軽減策といったものを戦略的に取り入れる必要があります。

今迄どおり放送だけでも卒業することはできますし、情報に慣れていない人には面倒なこともわかりますが、勉学のたいなる質向上のために、なるべく思い切って情報化していただくことを切に希望し、放送大学の一層の発展を祈念するものであります。

学習センターにおける キャンパス(カレッジ)・ライフの充実を目指して

副学長 二宮 皓



東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますと同時に、厳しい状況の中でも放送大学で学業を継続していただけるようしっかりと支援していかなければという思いを強くしております。頑張ってください、という言葉も時には負担になりすぎることもあるかとは思いますが、少しでも学びを継続していただけることを祈っております。

私は広島大学を定年退職後すぐに、広島学習センター所長としてこの2年間学習センターの運営等に從事してきましたが、この副学長のポストはまさに全国の学習センター・サテライトスペースを担当するものです。所長時代には石弘光学長の「アクションプラン2010」を踏まえて学生中心のセンターのあり方、満足度を高める支援のあり方を模索してきました。放送大学で学ぶ学生の皆さんにとって学習センターこそがキャンパスであり、カレッジであり、そこでの学びが充実したものにならない限り、満足も半分までといったことになると思っていました。

学習センターでは単位認定試験を受けたり、放送教材を視聴したりするだけでなく、サークルやクラブ活動も活発に展開され、ともに学ぶ人々のネットワークもできています。学習センターの中にはすでに20周年を迎えているところもあり、学習センターは十分に歴史の重さに耐えてきているといえます。そうした学習センターをいっそう学生の方々の身近な存在にし、通信制大学における「ふれあい」と「賑わい」が創出されるようなキャンパスにしていきたいと思えます。

また学士課程に在籍される学生の方には、可能な限り「卒業研究」に挑戦し、大学における研究の醍醐味を味わって卒業していただければと思います。支援体制を工夫してみていただければと思います。

学生のニーズにいかに応えることができるかが学習センターの生命線だと思って、支援に力を注ぎたいと思いますのでよろしくお願いします。

就任挨拶

副学長 吉田 光男



東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。このたび予期せぬことに副学長をお引き受けすることになりました。岡部学長を中心とする執行部の一員として、よりよい放送大学を築き上げることを目指して、微力を尽くしていこうと誓っています。私の担当分野は総務・大学院・広報など多岐に亘っており、いずれも大切な仕事です。これから様々な分野で皆様と関係ができるものと思います。その職務の大きさ広さに身が引き締まる思いがしています。

私は、アジア史のうちでもとくに韓国朝鮮を中心とした東アジアの近世社会史を専門分野としています。研究の最重要キーワードは人間関係における「きずな(絆)としがらみ(柵)」です。良き関係は「きずな」として人々が助け合う基礎となり、悪しき関係は「しがらみ」となって人々に苦痛を与えます。放送大学は、学生を中心に、本部と各学習センターの教職員たちが研究・教育のコミュニティーを作っています。それこそが私たちの大切な「きずな」です。日本における最大・最良の遠隔教育・生涯教育機関である我が放送大学で新たな勉強モデルや教育モデルを構築すること、そして学生教職員が心を合わせ、放送大学に対する愛情と期待を「きずな」として素敵な大学を作り上げるための礎になること、この二つを自分に課せられた使命だと考えています。

副学長就任のご挨拶

副学長 來生 新
きすぎ しん

簡単な自己紹介を兼ねて副学長就任のご挨拶をいたします。

専門は法律学で、経済法と行政法。市場と政府の関係にかかわる様々な現象を法律のサイドから研究してきました。最近では沿岸域の総合的管理の仕事が多くなっています。本学には2009年の5月に着任し、今年の4月からラジオで「企業・消費者・政府と法」を始めたばかりです。自分で言うのも何ですが、消費者にかかわる法律を、素人にもわかりやすく、面白く勉強してもらえらる教科になったと自負しています。ぜひ受講してください。

好きなもの。シェイクスピア、T.S.エリオット、出世や実直な生き方とは相いれない、飲食に代表される数多くの由無し事。マリア・カラス、三波春夫、死ぬ5年前までのディック・フランシス、田辺聖子、R・A・ハインライン、池波正太郎、池澤夏樹、谷崎潤一郎、WOWOWの孫子大伝、等々書ききれない。料理教室で教えた経験あり。

30年前、放送大学の設立時に、放送大学の法律関係のカリキュラムを作る仕事のお手伝いをし、客員として「経済活動と法—市場における自由の確保と法規制」を担当しました。この年になって自分がもう一度放送大学の教員になり、ましてや副学長となって管理にかかわるとは、当時、夢にも思っていませんでした。ご縁というべきでしょうか。

放送大学の創設時に比べて、本学への社会的ニーズも、放送と通信にかかわる技術も、日本社会の抱える問題も、一変しています。放送大学がこのような変化に対応するお手伝いをすることが大事な仕事だと考えています。どうかよろしくお付き合いください。

就任の挨拶

理事長 白井 克彦

皆様、こんにちは。今年はいよいよBSデジタル放送を通じて、全国一律な放送という放送大学開設以来の願いが実現します。放送大学学園をあげて気分も新たに進みたいと思います。

放送大学は、テレビのチャンネルを送って行くに出てきますから、私も以前から時々見えています。私と同様に、たまたま見るうちに「面白そうだな」と思って引き込まれて終りまで見てしまった、ということをおっしゃいます。昨今は、他のテレビチャンネルと比べても内容がユニークだから、時々放送大学を見るという人も増えています。

このように、多くの授業内容を誰でも見られる放送という形で提示しているということは、放送大学の第一の特徴です。偶然、見てくれた人達が是非放送大学で継続して学んで見たいと考えるように、さらに内

容を充実して行きましょう。

第二には、本当に色々な学生さんが、幅広い目的や関心を持

って学習しており、生涯学習機関として高く機能していることです。若い人々にも年配の方々にも勉強してみようかと感じさせ、放送大学の「学びの場」に多くの方を引き込んで行けるように、幅広い学生にとって魅力のある仕掛けを用意して行きたいと思います。

これからも、テレビ、ラジオは勿論、インターネットなどの新しい媒体も活用し、国民の生涯学習機関として、一層レベルの高い大学を実現して行きたいと思っています。皆様の御支援をお願いします。



退任のごあいさつ

退任に当たって

元副学長 荻野 博

2001年4月1日に仙台の宮城学習センター所長に就任し、6年後の2007年5月1日に千葉の放送大学本部に転任した。以来4年弱、総計10年も放送大学のお世話になった。おかげで同僚、職員はもうろんのこと、多くの学生の方々とも親しくしていただいた。

退任の日が近づいた3月11日に日本を、また世界を震撼させた東日本大震災が起こった。放送大学本部や千葉学習センターもあちこち傷み、構内では埋立地特有の液状化現象も見られた。宮城県海岸に近い地域に住んでいた何人かの学生さんに「ご無事ですか？」と手紙を出したのだが、今日まであまり返事がなく、心配している。

4月初めに仙台に戻る予定を立てていたが、震災の影響で4月末に延ばさざるをえなくなった。1ヶ月遅れにはなったが、放送大学本部で石学長のもと放送大学の改革に励んだ思い出を胸にようやく仙台に戻ることにした。

仙台に戻ったらやりたいことが二つある。一つは宮城学習センター所属学生として過ごすこと、もう一つは震災からの復興のお手伝いをする。2011年度は面接授業も三つの学習センターでさせていただくことになっている。どうやら忙しい日々は続きそうである。

充実した10年間であった。皆様に心からの御礼を申し上げたい。



御手洗前理事長は3月31日、石前学長、本間前副学長、濱田前副学長は4月30日をもって、任期満了で退任されました。引き続き、本間前副学長、濱田前副学長は、教授として在職されています。

就任あいさつ

生活と福祉 教授 小城 勝相
生活健康科学プログラム

4月から着任した小城勝相（こじょうしょうすけ）です。工学部化学系出身ですが、薬、医、理、教育学部を経て、こちらに着任する前は国立大学法人奈良女子大学生生活環境学部で栄養学、特に生活習慣病の原因とされる酸化ストレス、それを抑制するビタミンC、Eなどの生化学的研究をしてきました。人体は約60兆個の細胞から構成され、その一つ一つの細胞の中で1万種類を超える分子が神経やホルモンの働きによって整然とそれぞれの役割を果たすことで健康が維持されています。生命とは調節された膨大な化学反応のネットワークであり、化学の知識があって初めて生命の科学的理解が可能になります。化学は敬遠されることが多いのですが、生命、医療、健康、環境、資源、エネルギーなど、現代社会の重要な問題を考えるときに避けて通ることはできません。生命の神秘を学びながら健康的な食生活について考えて行きたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

放送大学の花咲か爺を目指して

生活と福祉 教授 井出 訓
生活健康科学プログラム

北海道の4月は、なんとも中途半端な季節です。関東のように桜が満開となるには早く、雪が多い年などにはまだあちこちに雪山が残り、春物のコートが寒々しく感じます。今年の4月は、13年ぶりに暖かな陽気の中で満開の染井吉野を愛でることができました。桜咲く4月に生まれ、東京で育った私だからか、北海道に渡ったあとも葉桜になる蝦夷山桜を待つよりは、この時期に大盤振る舞いするかのように咲き乱れる桜にどこか惹かれてしまいます。こうした春を、これから何度味わえるだろうか。蝦夷山桜を恋しく感じる日がくるのだろうか。などと思いを巡らせながら、風に舞う桜の花びらを眺めていました。

専門は老年看護学です。人間の老いをどう支援していくのかを全人的な健康という枠組みから考えていく学問だと考えています。いわば、桜の花びらが美しく舞い落ちるその姿を、どれだけ輝かすことができるのかを考えていく学問なのです。などと、暖かな陽気に浮かれて言ってみたくもなりますが…。この春から生活と福祉コースに着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

新任挨拶

心理と教育 教授 三宅 芳雄
人間発達科学プログラム

この4月から、放送大学の専任教員になりました三宅芳雄です。私はこれまで、人の知が現実の生活のなかでどのように形成されていくのか、またその形成をどのように支援できるのかを主な対象に研究を行ってきました。このような研究対象の性質上、心理学、情報科学、哲学など、既存の多くの分野との関わりの中で仕事をしてきたということになります。こんな事情があるため、自分の専門を認知科学だと言っています。

認知科学は人の現実の知を対象にしているため、どんな人にも直接的な関わりのある学問です。これまでに積み上げられてきた認知科学の知見には役に立つものも多いのですが、そのような知見があまりうまく整理されていないこともあって、世の中にその成果が十分には還元されていないという現状があります。認知科学の成果を世の中にうまく生かすようにすることは、それ自体が認知科学研究のチャレンジングな課題でもあり、このことをこれから放送大学の皆さんと一緒にやっていけることに、やりがいと嬉しさを感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

就任挨拶

社会と産業 教授 道幸 哲也
社会経営科学プログラム

「二次会に無理に誘うのはセクハラだと思います」「男子だけで二次会にいくのは性差別でないでしょうか」。「整理解雇の対象は、職場の盛り上げ役だけ勤務成績のよくないA君」それとも「成績はまずまずだけど自分のことしか考えないB君」。職場では「熱血教室」ではとりあげない難問が頻繁に生じています。このような職場のトラブルをどう法的に、ということは共通のルールに基づいて解決するのが労働法の役割です。本学に赴任するまで小樽商科大学や北海道大学で労働法を教えていました。研究対象は、団結権を保障する不当労働行為制度・法理を中心とする労働組合法全般です。実務的にも、30年に渡り、北海道労働委員会の公益委員をしています。同時に職場の人権保障の観点から、労働契約論、労働者人格権、プライバシー等についても研究してきました。

労働法は、職場、人間、働くことの意味が問われる興味深い領域といえます。

新たな学びの価値をつくる

社会と産業 教授 小倉 行雄
社会経営科学プログラム



私は、経営学の研究とあわせて地域や地域産業の問題も研究してきた。経営学のための専門家や地域経済・産業活性化の専門家はそれぞれ多くいる。しかし、この2つの領域をあわせて専門とする研究者は多くない。また、前任校では、長く社会人向けの大学院で経営やビジネスの基本を社会人に教えてきた。

こうしたキャリアと放送大学の特性を考え合わせ、放送大学では、学生の参加性や能動性を引き出す授業と教育の展開に努力したい。放送大学には、誰でも、どこでも、いつでも学べるという自由度の大きさや、学生の多様性、学生数の多さなどの長所がある。一方、通信制の教育に特有な制約条件も多い。たとえば、教育内容を深めようとするとき必要になる調査や見学など現場的教育実践はむずかしい。また、学生の多様な自主活動の組織化も困難である。こうした制約条件は大きいですが、それでもやり方次第で、制約条件を突破するワクワク、ドキドキする授業や教育と学びができないことはないと思われる。そこでこうしたことに挑戦し、放送大学の学生と共に新たな学びの価値をつくり出してみたい。それは次の3つである。①学びをとおして、社会でよりよく生きるための判断軸を養う。②現代の知的プロフェッショナルに必要なスキルの一端を身につける。③共通の友との学びの中で、たしかな自己成長を実現する。

就任挨拶

社会と産業 教授 岡田 光正
社会経営科学プログラム



1月から放送大学に着任いたしました岡田光正です。「社会と産業コース」「社会経営科学プログラム」に所属しています。専門は環境化学工学、生態工学です。前任の広島大学大学院工学研究科、東京農工大学工学部、さらにその前の環境庁国立公害研究所（現国立環境研究所）と一貫して環境に関する研究と教育を行ってきました。主なテーマは上下水処理技術、廃棄物処理技術、沿岸域や湖沼等の水環境改善技術の開発です。また、その成果を現実の環境保全施策に生かすため、環境省をはじめとする国や地方自治体の様々な環境行政を科学技術的側面からお手伝いしてきました。単に科学技術的視点だけではなく、地球環境問題やエネルギー問題等、さらには地域再生も含む広範な環境問題に対し、法制度や経済的な側面も考慮しながら、その解決策を提案する研究を志向しております。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会、そして安全・安心が確保される持続可能社会の実現をめざして、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

新たな時代に古典の教養を

人間と文化 教授 宮下 志朗
文化情報学プログラム



2010年10月1日付けで着任した宮下志朗です。岡山大学、中央大学、東京都立大学、東京大学（駒場）と、国公立大学での教育・研究経験を経て、ついに電波空間を主たる教場とする特別な大学に飛来しました。放送大学では客員教授として「地域文化研究III」などを担当した経験があります。専門は（フランスを中心とする）ルネサンスの文学・歴史、そして書物の文化史ですが、もっとも長期間在籍した大学では、外国語（仏語と伊語）や総合科目なども担当していましたので、いわゆる「教養教育」の重要性は十分に認識しているつもりです。なお、専門研究とならんで翻訳も数多く手がけており、バルザック、ゾラなど、みなさんもよくご存じの作家の作品も訳しています。現在は、ラブラー《ガルガンチュアとパンタグリュエル》とモンテーニュ『エッセー』という古典の新訳に多大なエネルギーを注いでいます。旅が好きなので、全国のみなさんのところにてかけて面接授業を行い、あれこれと議論・雑談することを大いに楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

生活と福祉 准教授 川原 靖弘
生活健康科学プログラム



4月に着任いたしました川原靖弘と申します。こちらに着任する前は、東京大学大学院新領域創成科学研究科、神戸大学大学院システム情報学研究科にて、研究及び大学院生までの指導を行ってきました。専門は、計測工学、生活科学で、日常生活における安全・安心、QOL、健康について、計測工学の視点から研究しています。望まれる生活環境をつくるためには、人の行動や取り巻く環境の変化を、把握・予測することが必要になります。私は、環境モニタリング、行動認識、物流交通、昆虫生理学の分野で、センサの開発、情報収集・処理の方法、情報共有方法などについて、研究を行ってきました。センサ工学や情報工学の分野は日々急速に進歩していますが、これらの技術や方法を、実験室を離れて生活空間に応用することを考えると、たくさんの課題が生じます。放送大学では、消費行動や健康工学、感性メディアデザインなど実生活に即した分野において、これらの課題を皆さんとともに考えてゆくことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

就任挨拶

生活と福祉 准教授 戸ヶ里 泰典
生活健康科学プログラム



このたび縁あって放送大学に着任しました戸ヶ里泰典です。専門は看護学および保健医療社会学です。前職は山口大学医学部で衛生・公衆衛生学の教鞭をとっておりました。金沢大学で看護師・保健師の資格を取得し、大学病院で看護師として病棟勤務をしていたこともあります。

看護学は病(やま)いをもつ人、今後持ちうる人に対する支援と援助の理論や方法を追究する学問ですが、健康・病気というキーワードを通じて「生きる」とは何かを、生物・心理・社会の枠にとらわれず学際的に追究する人間学でもあります。私の研究テーマの一つは健康生成論とストレス対処能力SOC(sense of coherence)に関するものです。これは、イスラエルの健康社会学者アントノフスキーが1980年代に提唱した比較的新しい健康理論で、生物医学領域で研究が進んでいる「何が疾患を作るのか」(危険因子)を追究するという病因論に対して、「何が健康を作るのか」(健康要因)を追究するスタンスの重要性を説くもので、看護学の基礎にもなります。この健康要因の中核にSOCと呼ばれる、生活・人生に対する見方や考え方の特徴が浮かびあがってきており、人のSOCの測定方法の開発や、予測力、形成要因に関する実証研究を通じ、「健康」「生きるということ」「支援」「社会」について研究しています。放送大学では皆さんとともに健康とは何か、何が健康をもたらすのかを、学際的に、そして看護の視点で考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

心理と教育 准教授 小林 真理子
臨床心理学プログラム



4月に放送大学に着任いたしました小林真理子です。これまで医療および教育の領域で、主に乳幼児から青年期の子どもたちとその家族を対象に臨床心理士として心理臨床活動に携わってきました。子どもの心理アセスメントや心理療法、親子関係や子育て支援を専門としています。最近では、子育て中のがん患者さんとその子どもへの支援について関心を持ち、調査や実践を行っています。前職の国際医療福祉大学では、医療福祉の様々な専門職をめざす大学生や臨床心理士をめざす大学院生に授業や臨床指導を行う傍ら、学生相談室でカウンセラーとして相談業務にも従事しておりました。放送大学では、全国各地から志を持って入学してこられる様々な背景をお持ちの皆さまと一緒に、心理臨床の世界についての学びを深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

さまざまな問題の解決に向け、 ともに学んでいきましょう

社会と産業 准教授 北川 由紀彦
社会経営科学プログラム



1月に着任しました北川由紀彦です。専門は社会学で、学部時代に卒業論文を執筆して以来、「社会的排除」をめぐる問題の社会学的研究(この社会においてどのような人々がどのようなメカニズムにより社会的に不利な位置におかれているのか)を研究テーマとしてきました。より具体的には、いわゆる「ホームレス」の人々をはじめとした貧しい人々の実態およびそうした人々への社会的な支援や対応のあり方、その課題などについて、社会調査を通じて実証的に検討しています。

今回の東日本大震災も含め、近年の経済・社会の大規模な変動により、さまざまな問題が生じています。放送大学の学生の方々の中には、現にそうした問題の解決に取り組んでいる方、これから取り組もうとしている方も多いことと思います。そうした問題の解決のためには、まずは問題の構造と背景について深く掘り下げて学ぶことが不可欠です。放送大学での教育・研究を通じて、みなさんと一緒にそうした学びを進めていきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

学習センター所長

茨城学習センター 白石 昌武 (茨城大学名誉教授)



今回の大地震を経験し、地震をどうにか制御できないかいつも考えています。専門は制御工学です。放送大学学生の皆さんに私自身非常に楽しみにしていることがあります。それは通常の大学生と異なり年齢および職業が多岐に渡っていることから、例えば同一のレポート課題に対しどのような考え方があるのか、つまり纏めに至るまでの過程(プロセス)にいかなる考え方の相違があるかと言う点です。単に学ぶだけでなく、独創的な考えも育めるようなセンターにできればと思っています。

埼玉学習センター 菅野 峰明 (埼玉大学名誉教授)



昨年3月に埼玉大学を定年退職するまで、埼玉大学教養学部で33年間にわたって人文地理学・地誌学を教えてきました。研究分野は都市地理学・アメリカ地誌学で、日本の都市の土地利用、アメリカ合衆国の都市発達と都市構造、アメリカの諸地域の地域性とその形成過程、アメリカの高齢者の移動などを研究してきました。放送大学は学ぶ意欲の盛んな人々の集まりですので、それらの人々にとって学びやすい環境を作るように努力していこうと思っています。

就任のごあいさつ

東京多摩学習センター 田崎 宣義

(前一橋大学特任教授)

4月から新井先生の後任として着任しました。教職員の皆さんと力を合わせ、新井所長の築いた実績と伝統を大切に、勉学意欲あふれる学生の皆さんの学びの励みになり、また学びの喜びをしっかりと支えることのできるセンターを作って、学びの熱意に応えたいと思っています。専門は日本近代社会史、最近ではもっぱら必要に迫られて関東大震災後に誕生した大学町・国立を調べています。せっかくなので、センターのある小平学園都市も視野に収めたいと思っています。



富山学習センター 服部 征雄

(元富山大学・和漢医薬学総合研究所長)

富山は昔から配置売薬業が盛んで県民の健康志向も高い土地柄であります。大学附属研究所の和漢医薬学総合研究所がこの地に設置されたのもその様な歴史的背景があります。県民は総じて働き者で学習意欲が非常に高いことに驚かされます。しかしながら放送大学に関してはまだまだ認知度が低く、私達の努力の見せ所だと思っております。県民のここを取り入れた特色ある富山学習センターにしたいものです。



三重学習センター 上野 達彦

(前三重短期大学長・元三重大学副学長)

人は、生涯を通して学ぶことによって、精神的に強くなっていきます。学ぶことに終わりはありません。そのような条件を満たしてくれるのが放送大学だと思います。私は、長年、法学・刑法学を勉強してきました。法の世界は、無味乾燥であると言われる。しかし、法は人のために制定されているのであって、法の世界は人が往来する世界であります。このため、法との付き合いは市民の目線に立った法の解釈や適用が必要だと思えます。その一つの試みが裁判員裁判であると注目しています。よろしくお願いします。



大阪学習センター 林 正則

(大阪大学名誉教授)

「分かる」とは「分かち合う」こと。放送大学での学習は「孤学」「個学」というようですが、やはり社会や自然、広い意味で「他者」と向き合うことなしに「学」を深めることはできません。学習センターの役割は、教師と学生、学生同士が直接に出会う場と機会を提供することです。私の専門分野はドイツ文学、特にゲーテ、シラーを中心とする18世紀文学。今日と同じような大きな変革の時代を生きた作家たちから、私たちが学ぶべきことは少なくありません。



広島学習センター 安原 義仁

(元広島大学附属小・中・高等学校校長)

この4月に広島学習センターの所長に就任して、はからずも小学生から熟年成人まで幅広い世代の教育・学習に関わる経験をするようになりました。乳幼児のそれは未経験(わが子は別として)となりますが、教育研究者としては実にありがたいことだと思っております。私の専門は教育学の中でも西洋教育史とくに近代イギリスの大学史・教育史です。これまでに学んだことをふまえつつ、放送大学の学習センターという生涯学習・遠隔高等教育の最前線で微力を尽くしたいと存じます。よろしくお願いいたします。



愛媛学習センター 森 孝明

(元愛媛大学法文学部長)

この4月に愛媛学習センター所長に就任しました森孝明です。専門はドイツ文学・文化論で、昨年、面接授業「ゲーテ時代の文化と文学」を担当しましたが、学生さんの年齢の幅広さと授業への取り組みの真剣さに感心しつつ、充実した時間を経験しました。学ぶことは楽しいものであり、学問は人間の幸福のためにあります。学生さんが学ぶ喜びを持続させながら利用できるセンターを目指したいと願っております。



鹿児島学習センター

中山 右尚

(元鹿児島大学理事)

一昨年、面接授業を担当する機会に恵まれ、放送大学の学生さんの聴講する目の輝きに感激していました。所長を拝命するとは、夢にも思わない出来事です。身の引き締まる思いです。懸命に努力したいと思っています。日本近世文学が専門です。学生のさまざまな学びを適切に支援できる学習センターをめざします。当センターは鶴丸城址や西郷隆盛終焉の地の城山、西郷らの私学校の跡などがすぐそばに眺められる地にあることもうれしく思っています。



学習センター所長

退任のごあいさつ

大阪学習センター

柏木 隆雄

あっという間の3年間。一番有り難かったことはセンター所長として思いもかけなかった方々との出会いでした。勉強熱心な学生さん、障害をかかえながら明るく、知的で前向きな方々、そして窓口で多種多様な学習者に対しての適切で親切的な対応をする事務長をはじめとする職員の皆さん。それ以上に全国の学習センター所長先生との出会いは私の人生で特筆すべきことでした。ブロック会議や全国所長会議、教授会と多くの先生方と新しい友情を育むことができました。これらの出会いの果実を退職の後、さらに大きくしていきたいと願っています。皆さまのご厚情を感謝しつつ。



東日本大震災 義援金について

3月11日に発生した東日本大震災により東北地方の学習センター、サテライト・スペースを中心に大きな被害を受けました。被災された教職員、学生の方々には、心よりお見舞い申し上げます。

先般、大学の社会的責任を果たすために、被災者支援として義援金をお願いいたしましたところ6,618,133円（4月25日現在）にものぼる募金を頂戴いたしました。学生の皆様、教職員のご協力により災害復興へのお手伝いが微力ながらできることに教職員一同、喜びを感じております。ご協力をいただきました皆様方、本当にありがとうございました。ご協力いただきました義援金は4月25日（月）放送大学を代表して石前学長が日本赤十字社千葉県支部秋山事務局長へ目録をお渡ししました。この様子は、4月末に「大学の窓」でもお知らせしました。

なお放送大学では被害に遭われた在学生の方々と



石前学長と日本赤十字社千葉県支部秋山事務局長

入学予定の皆様に対して、授業料や入学料の納付期限の延長や、印刷教材を紛失された方への無償給付等の支援策を講じました。

また学生サポートセンターでは被災地専用のフリーダイヤルを設置し、修学を続ける上での問題や不安について、1日当たり10数件から50数件のご相談を受け付けました。

被災地におかれましては、安全で安心した生活が再び訪れることを、心からお祈り申し上げます。

より高画質に！ より使いやすく！

10月よりBSデジタル放送開始！



学習環境の一層の向上が期待されています

放送大学の番組は現在、関東の一部エリアにおいては地上デジタル放送とアナログ放送（7/21終了）、それ以外のエリアではCS放送で放送されています。10月よりBSデジタル放送での視聴が可能となることにより、CS放送に比べて高画質な映像の提供、3番組の同時放送、データ放送の提供が全国エリアで可能となるなど、学習環境の一層の向上が期待されています。

なお、BSデジタル放送開始に伴いCSデジタル放送は24年3月31日に終了いたします。

放送授業の視聴方法

- BSデジタル放送→平成23年10月開始
- CSデジタル放送→平成24年3月末終了
- CATV（ケーブルテレビ）
※CATV会社によっては視聴できない場合があります。
CATV会社へのご確認をお願いします。
- 地上デジタル放送（関東の一部エリアのみ）
- インターネット

※ラジオ科目は原則インターネット配信を行います。テレビ科目は一部となります。配信科目の詳細は放送大学ホームページでご確認ください。

CS放送（スカパー！SD）

現在CSデジタル放送を見ている方
（現在BSデジタル放送の見られない方）

ケーブルテレビ

ご加入のケーブルテレビが
放送大学の放送を終了する方

BSデジタル放送への切替をお願いします

ご準備
ください

BSアンテナ



BSデジタルチューナー 内蔵テレビ



または

BSデジタルチューナー + アナログテレビ



注意！

- マンション等にお住まいの方で、屋上にアンテナが設置されていない場合、ケーブルテレビ経由で視聴している可能性があります。管理組合等にご確認ください。
- ケーブルテレビ経由であった場合は、放送大学の放送の有無をケーブルテレビ会社にご確認ください。

※学習センターおよびサテライトスペースに配架の放送教材でも視聴できます。

第3回

テーマ「放送大学から広がる世界」

放送大学 学生エッセイ コンテスト

エッセイコンテスト実行委員長・同選考委員
自然と環境 教授

熊原 啓作

第3回放送大学学生エッセイコンテスト優秀作品選考の経緯と作品について簡単に報告します。

「2010年度放送大学エッセイコンテスト」の実行委員会において議論の結果、第3回のテーマを「放送大学から広がる世界」と決め、7月から10月にかけて募集が行われました。学生の皆さんは放送大学学生となることによって世界が広がっていると思いますが、その広がり方は様々です。

今回の応募者の総数は84人で今までで最高数でした。男性51人、女性33人で男性の応募者が第2回に比べると32人増と大幅に増えました。年齢は20歳から81歳に渡り、年齢差が60歳もある実に幅広い人たちが、同じ学生という立場で同じテーマでエッセイを書くなどということは放送大学でなければあり得ないことでしょう。興味深いのは男性の31%が60代であるということです。学部生が71人、大学院生が13人という構成で、所属学習センターは北は旭川サテライトスペースから南は鹿児島まで（残念ながら今回は沖縄からの応募はありませんでした）32学習センターに渡っていました。

内容についての印象は、前2回に比べて全体的に質が向上しているということでした。選考は2段階審査を行い実行委員会で20編に絞る予定でしたが、議論になり22編を第一次選考通過作品としました。次に6人からなる選考委員会がその中から順位を付けて入選作品10編を選ぶことにしましたが、同数得票があったため、別表のように最優秀1編、優秀3編、佳作7編の計11編を入選としました。各選考委員の採点を集計したもので順位を付けたため、ある委員が1位にした作品が別の委員は下位につけるなどあり、入選と落選の間の差の開きは大きくはなかったといえます。しかし、入選作は読み返してみればいずれもすばらしいものです。入選者には賞状と副賞を差し上げました。入選した作品は放送大学ホームペ



ージで読むことができます。

現在第3回までの入選作をまとめて1冊の冊子とする計画が進行中です。ご期待いただきたいと思います。

以下に簡単に最優秀および優秀作品を紹介します。

受賞者	作品名	学習センター
最優秀賞		
岡本安司	知識でなく、心の広がり	大阪
優秀賞		
坂本ひろみ	自ら世界を広げる力	鹿児島
西村将司	思わぬ3つの重荷	京都
水谷啓子	無縁社会に挑戦!バーチャル家族	愛知
佳作		
石川のぞみ	学ぶってエキサイティング	埼玉
大石寿子	開けゴマ!	栃木
佐藤美紀子	放送大学から広がる世界	岩手
高木順一	きっかけはボウリング大会	愛知
立花宏治	遙かなる旅	京都
高浦容子	放送大学から広がる世界	千葉
古田隆子	「はじまりの風」によせて	愛知
山光さゆり	出会いは人生を彩る神様	広島・福山SS

※各賞毎の氏名は50音順です。※学習センターは応募時のものです。

講評

最優秀賞「知識でなく、心の広がり」

大阪学習センター 岡本安司さん

放送大学への入学、放送大学での学習が「広がる世界」につながるかどうかは当人の自覚、問題意識によるということがよく分かる作品です。岡本さんは学習がネパールの末就学児支援活動につながり、問題の本質の理解につながったことが語られ、さらに世界が広がることが予想される言葉であるタイトルにつながっています。

優秀賞「思わぬ3つの重荷」

京都学習センター 西村将司さん

定年後放送大学で学習を始めるに当たり、周囲から3つの課題を与えられます。それを自分の達成すべきものとしてとらえ重荷と表現しています。しかし重荷といいながら文章からは決していやがっているようには読み取れません。受講が進むうちに、むしろ楽しい課題として克服しようとの決意に変わる。それは様々な講義が案内してくれる広がる世界があることが分かってきたからです。

優秀賞「自ら広げる力」

鹿児島学習センター 坂本ひろみさん

育児休暇中の教師である作者は、出産と育児で家庭に縛り付けられるなかで、悪戦苦闘しながら放送大学の課題をこなして学習を進めます。その学習の中で広い世界を再発見し、育児や子供の発達などの身の回りの問題を見直し対処する知識を獲得していきます。その努力の過程を「自ら広げる世界」と言葉で表し、自分の生活を振り返り将来への決意で文章を締めくくります。

優秀賞「無縁社会に挑戦!バーチャル家族」

愛知学習センター 水谷啓子さん

放送大学での学習は孤独であると悟り勉強してきた作者は、ふとしたことから卒業研究のゼミ仲間とうちとけ、ともに励みながら卒論発表を迎え、やがてはともに大学院に進み3姉妹と呼ばれる。大学院ではこの姉妹に兄弟ができ、さらには大きな家族になって修論提出にまでこぎ着ける。無縁社会の逆を行く世界の広がっていくさまがユーモラスにつづられています。

知識でなく、心の広がり

教養学部 全科履修生 岡本 安司
大阪学習センター



「もう一度人生に冒険をしたい」とかっこの良い言葉を友人に言った。停年まで後5年、仕事中心の日々であったが、悔いはないし、それなりに満足もしていた。しかし、人生を80年とするならば、本当にやりたいことにチャレンジできる年齢で退職した方が良く、と思い仕事を辞めた。その一つが大学で学ぶことであった。しかし、年配者が簡単に入れる大学は多くはない。そんな者でも無試験で入ることができ、また自分の学びたい人文科学系の講座が充実しているのが放送大学であった。「人間の探求」を専攻し入学を決め、停年に合せて、5年で卒業することを目的とした。今から振り返ればあつという間の5年間であった。

話はかわるが、10年ほど前にネパール在住の友人の誘いでネパールに行った。初めて最貧国の実情を知った。裸足で歩き、食べ物をねだる子供の姿はテレビなどで知っていたが、目の当たりにした時の衝撃は大きかった。トレッキングをしていると、色黒で目の大きいかわいい中学生ぐらいの女の子たちに出会った。少し立ち話をした。彼女たちは、1時間以上歩いて学校に通っている。話の中、笑顔で「私たちは幸せです。学校に行けるから。村には学校に行けない子がたくさんいます。家の手伝いをしなければならぬから」と言った。キャンディーを少し分けてあげたら首を横に倒して「ありがとう」と言い、そして急な山道をサンダル履きで、元気良く登って行った。

3年前に再度訪問したとき、友人から学校の支援を依頼された。ネパールの為に何かできることはないかと考えていたこともあり、未就学児童の教育支援を行うNPOを立ち上げることにした。国際支援を行うNPOは知っていたが、具体的にどうしていいのかわからなかった。その時に「NPOマネジメント」の講座を知って受講した。NPOの設立から問題点や体験を含めた内容はとても参考になり、おかげで、NPO法人ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN) を設立することができた。

しかし、支援を通して、ネパールの貧困は教育だけでは解決できないことを知った。ヒンズー教のカースト制度による職業差別、男女差別や政治的な課題も含めてあまりにも問題が大きい。一体ネパールの何を知っていたのだろうか、本当のネパールを知っているのだろうか、果たして自分のしていることが役立つのだろうかと言った疑問も沸いてきた。そんな悩みをかかえていた時に「文化人類学」を受講

し、その講義の中で話された文化相対主義に深く感動した。講座を通じて、豊かさだけを良として貧しい国を異文化と見下して比較するのではなく、それぞれの国の社会、宗教、文化を理解すること、現地の人と共に歩んでいくことが大切であることを考えさせられた。それまでは、豊かな国の日本から貧しい国のネパールへ施しをしていると言ったおごりがあったのは否めない。これでは、本当の支援ができない。もっと深く彼らの状況を知るためにも歴史、文化、経済を幅広く学ばなければならないと思うようになった。専攻も「人間と文化」コースに変更した。

貧しい国は、決してネパールだけでない。アフリカ、中南米、近くは東南アジアにも多い。貧困と教育体制を知りたく、カンボジア、タイ、フィリピンを訪れた。貧困という言葉は一つであっても、それぞれの国の状況が全く違うことがわかった。「途上国の開発」や「前近代の東南アジアの歴史」の講義で学んだことを現地で確認し、さらに理解できたことは何よりも大きな収穫であった。

多彩な講義を通じて、広い視野、広い心を持つ必要性を痛感した。自分の考えだけが決して正論でない。多くの意見があってしかるべきであり、また多くの反論にも素直に耳を傾けることが大切であることを知った。教育、心理、経済の科目の一つ一つに考えさせられた。面接授業の「イスラム入門」では日本になじみのないイスラム原理主義者による自爆テロについても即物的に判断をする前に、彼らの行動のバックボーンであるイスラム教やイスラム社会の何たるかを教えていただき、異文化を考える良い機会となった。

放送大学で学んだことは多い。学んだことが自己の知識欲を満足させるだけのものではなく、広く社会に貢献できるものでありたい。また、大学院に進み更に学びたい。これも新しいチャレンジである。

知ることの喜びを味わえることは、楽しく素晴らしいことである。人は、なぜ学び、学ばなければならないのかと言った高邁なことは分からない。しかし、放送大学で学ぶことを通して、単に知識が増えたと言うのではなく、心の世界が大きく広がったと確信している。

今、私は、あの山道で出会った女の子と同じように心から言える。

「私たちは幸せです。学校に行けるから」

日本語からたどる文化('11)

放送大学准教授
(人間と文化) 大橋 理枝

首都大学東京教授
(放送大学客員教授) ダニエル・ロング



大橋理枝
准教授



ダニエル・ロング
教授

授業内容として日本語を扱う科目といえば、国語学や日本語教育などの分野を思い浮かべられるのではないのでしょうか。また、日本の大学の授業で日本語を扱うなら日本語母語話者が担当して当然、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。この科目ではこれらの「当たり前」を問い直すことを主眼としており、その際に「外からの視点」を取り入れることが有効であると考えています。その具体的な形が、社会言語学とコミュニケーション学の観点から日本語を扱うというこの科目

の構想や、アメリカ人でありながら小笠原方言の研究者であるダニエル・ロング先生が主任講師の一人であるという点に表れています。「日本人より日本を良く知っているアメリカ人の先生と、日本人のくせにロクに日本文化を知らない相方」とのコンビでお送りするこの科目を通して、普段意識していない「当たり前」に気付き、それを問い直して、日本語や日本文化について改めて考えてみて下さい。

言葉と発想('11)

聖徳大学教授
(放送大学客員教授) 伊藤 笏康



伊藤笏康
教授

言葉を分かるようになる、とはどんなことだろう。私たちは気がついたら日本語を操れるようになっていた。同じように英語のネイティブも、気がついたら英語を使えるようになっていた。だからどちらも、「どんなふうにして母国語を分かるようになったか」は知らないのだ。しかし「どんなふうにして言葉がわかるようになったか」を意識的に分からないと困るときがある。それはわたしたち

が英語を習得するときだ。

この番組は、「言葉をわかるようになる」というブラックボックスの中を覗いてみようという試みだ。素材として、日本語と英語を取り上げ、日本語と英語ではブラックボックスの中身(=発想)がずいぶん違っていることを見てゆきたい。そうすれば、英語の冠詞の用法などもおのずから明らかになってくるだろう。

疾病の成立と回復促進('11)

聖マリア学院大学教授
(放送大学客員教授) 松尾 ミヨ子

大阪大学大学院教授
(放送大学客員教授) 大和谷 厚



松尾ミヨ子
教授



大和谷厚
教授

本科目は看護を学ぶ人や体が病むということに関心を持つ人が受講されるものと思います。自分の健康は自分で管理するという時代に入り、人々の病むことへの関心は増しています。本科目では、疾病はどのように起こるのか(原因)、疾病が起こると体のどこにどのような変化が現れるのか(病態)、その変化をどのように自覚したり、他覚したりするのか(症状)、疾病はどのように症状をつくりだし、それは体の変化の何のサインなのか、体は疾病からどのように回復するのか、回復に影響するものは何

かなどの内容を、看護師もしくは医師である6名の講師によって授業を進めます。授業内容は、看護師国家試験の出題基準を検討し、疾病と回復に関する看護師に必要な知識をできる限り網羅するよう努めました。看護師の役割を大きく支えるのが、体の構造と機能、疾病に関する知識と関心であろうと思われます。本科目が、受講者の疾病についての継続した学習に役立つことを願っています。

初歩のアラビア語('11)

京都ノートルダム女子大学教授 鷺見 朗子
(放送大学客員教授)



鷺見 朗子 教授

アラビア語ってどんな言語だろう？どんな人々が使っているんだろう？アラビア語の世界がちょっと気になる方はぜひ受講してみてください。アラビア語は西南アジアと北アフリカを中心に20以上の国と地域で話されている世界の主要言語のひとつです。世界人口の約5分の1を占めるイスラーム教徒の言語でもあります。アルファベットは28文字あり、横方向に右から左へ書かれ、読まれます。単語内では文字はつなげて書かれます。

本科目ではアラビア語の世界を楽しく学んでいきます。

主任講師のアラビア語板書による

説明やネイティブ・スピーカーとの発音練習等によって、ゆっくりかつ確実に学習を進め、会話力も養います。さらに、語学学習だけでなく、アラブ文化とイスラーム文化の理解もめざします。アラブ地域の人々の生活、歴史、芸術、宗教にかかわる文化を紹介した映像とインタビューを盛り込みました。何か新しいことに挑戦したい、自分の世界を広げてみたいと思っている方にも受講していただけたらと願っています。

子どもの生活と児童福祉('11)

立正大学教授 田澤 あけみ
(放送大学客員教授)



田澤 あけみ 教授

経済・産業構造が大きく変化し、グローバリゼーションがより加速する現代社会にあって、国の内外を問わず子どもの生活拠点である家庭・家族、地域社会、学校等は今まさに大きな変貌の最中にあるといえる。加えて日本はかつてない少子高齢という人口構造の特徴が指摘されている。子どもやその家族を取り巻く現象や問題はさらに多様化、複雑化し、時には混沌とした状況にあるとすら表現できる。

こうした中で、子どもがより健やかに育ち、それぞれ

が最良の人生の機会を得るために、

これからの子ども期と児童福祉はどうあればよいのか、あるいはそもそも児童福祉とは何なのかなどの基本に立ち戻りつつ、人生の基礎づくりとしての子ども期の生活・環境整備のあり方を含みつつ、児童福祉の視点から総合的に検討・模索する。

講師陣は内外の子どもをめぐる政策・社会・歴史的理論研究の専門家だけではなく、児童福祉実践の第一線での専門経験者を含む5名で担当している。

乳幼児・児童の心理臨床('11)

日本大学准教授 山口 義枝
(放送大学客員准教授)



山口 義枝 准教授

「三つ子の魂、百まで」ということわざがあります。三歳までの成育で、ひとの性格が形作られると考えるのは、あまりにも、ひとのこころの成長可能性に悲観的すぎる考えだと思います。ですが、生れてから小学校を卒業する頃までの10数年間を、大人になってからの10年間と比べてみるとわかるように、目を見張るような変化を遂げる時期であると言えます。そのため、この時期に子どもが対人関係で経験する様々なことがらは、後年の、人付き

合いに小さくない影響を与えます。

この大切な時期の子どもへの心理的な援助について、基本的な知識や関わり方について学ぶこと、そして子ども援助の領域の一部ではありますが、実際に子どもの援助をどのように行っているのかも、知って頂くことを目的として科目を作成いたしました。この学びが、受講者の皆さんの子どもとの関わり方に良い影響を与えられたとしたら、講師一同の喜びです。

グローバル化の人類学('11) — 争いと和解の諸相 —

放送大学教授 (人間と文化) **本多 俊和** (スチュアート ヘンリ)

大阪大学准教授 (放送大学客員准教授) **大村 敬一**



本多 俊和
教授



大村 敬一
准教授

グローバル化といえば、多くの方に連想されるのは、経済活動や国際政治ではないでしょうか。それらの分野では、グローバル化に関する情報は確かに多い。しかし、この授業ではグローバル化が大きく影響しているのではあるが、スポットがあまり当てられてこなかった分野を人類学の視点から考察します。まず、グローバル化とはどのような概念なのかについて概観してから、さまざまな文化的、社会的なこと

がらにおけるグローバル化の歴史的背景とその「現代」をとりあげます。意外と思われるかもしれませんが、「人種」も家族も民族も戦争も考察の対象となります。そうした課題の考察を、日本、アフリカ、アメリカ、インドネシアなどの地域での現地調査を通してより立体的、より広範囲な視野の立場から総合的にグローバル化に焦点を当てる授業です。

微分方程式への誘い('11)

放送大学教授 (自然と環境) **熊原 啓作**

岐阜大学教授 (放送大学客員教授) **室 政和**



熊原 啓作
教授



室 政和
教授

変化する現象を関数で記述できればいつどうなるかが分かるはず。関数の変動を調べるのが微分法です。逆に現象の特性から関数の変動すなわち微分が規制されることがあります。それが微分方程式です。この方程式を満たす関数を求めることを微分方程式を解くと言います。方程式の解となるのは関数です。方程式は解ける場合も解けない場合もあります。解けるときは解き方を、解けないときは、解の持つべき性質を調べます。

高等学校で微分積分を学びます。この微分積分を学

ぶ大きな目標は微分方程式を理解することです。それによって数学が自然科学や社会科学にどのように応用されるかを実感できます。微分方程式で記述される事象に、いろいろな力学的な事象、人口の推移、物体の冷却、耐久消費財の売れ行き、熱の伝導、波の伝播、薬剤の血中濃度、年代測定等々数多くあります。微分積分学と線形代数学を勉強してから受講されることをおすすめします。

エネルギーと社会('11)

東京大学名誉教授 (放送大学客員教授) **鈴木 基之**

東京工業大学大学院教授 (放送大学客員教授) **柏木 孝夫**



鈴木 基之
教授



柏木 孝夫
教授

産業活動はもちろん、われわれの日々の生活、余暇を楽しむ上でも「エネルギー」は欠かせない。地球上のエネルギー消費量は、人口が急増しているのみならず、一人当たりのエネルギー使用量も増しており、年々増加の一途を辿っている。エネルギー消費を支えるために、石油・石炭・天然ガスなど化石燃料の燃焼による発電や熱供給、核分裂を利用する原子力発電のほか、再生可能エネルギーと呼ばれる水力、風力、太陽光、バイオマス燃料などが利用されている。化石燃料への依存は、燃焼

によって排出される二酸化炭素が地球温暖化を齎すことが、国際的な課題であり、原子力利用には安全性の問題がある。種々のエネルギー源の利用のしかたは、各国によって大きく異なっており、新興国が今後成長していくことが想定される状況の中で世界が、あるいはわが国がどのような持続可能な将来像を描くべきかについて、研究開発の現状も含め学んで頂きつつ、それぞれが自分の問題として考える機会として頂きたい。

生涯発達心理学研究('11)

放送大学准教授
(人間発達科学) 星 薫



星薫准教授

大学院科目として「生涯発達心理学研究('11)」がこのたび完成しました。「発達心理学」があるのに、なぜそこに別物があるのだらうと、不思議に思われる方も多いかもしれません。でも、たとえば、誕生直後の子どもが1年間に経験する変化の多さ、大きさは膨大です。だから、乳幼児の発達の变化やそのメカニズムを詳細に知ろうとする研究者は、それに没頭せざるを得ません。若者が一人前の大人へと成長するプロセスを考える場合だってそうです。だからいわゆる発達心理学では、人生のあ

る一時期を中心に、研究する必要が生じるのです。でも、同時に人はその誕生から死を迎えるまで、その人であり続けるわけですから、生涯を視野に入れつつ人の変化を見るという視点も必要になります。そこで登場するのが生涯発達心理学という訳です。ここでは、発達が子ども時代だけのものではなく、生涯続くものだという視点が基礎になっています。

発達途上にある、さまざまな年代の方々が学習して下さることを、期待しております。

臨床心理学特論('11)

放送大学教授
(臨床心理学) 齋藤 高雅



齋藤高雅教授

この科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会の規定による(大学院臨床心理学プログラム)必修4単位科目であり、臨床心理学における必要最低限の基礎的知識の習得を目的としたものです。すなわち、既に現場で心理臨床の実践をしている人々や、これから心理臨床の実践・研究に向かおうとする人々に対して、何らかの悩みや症状、あるいは問題行動に苦しんで相談に訪れた方(クライアント)に、心理学的な援助や支援をするために身につけねばならない必要な知識・方法論・

技能・倫理などを講じています。

近年の社会・経済システムの変動は、家族や地域社会、文化などにおいて、これまでの生き方を考えざるを得ない状況が生まれています。そして社会現象が心の問題にも反映され、難しい問題に関わることが増えており、心理臨床家は研鑽・努力し、成長することが求められています。そのため、今回、多くの専門家にゲストとしてご登場いただきました。この科目が心理臨床を学ぶ手助けになることを願っています。

行政裁量論('11)

熊本大学准教授
(放送大学客員准教授) 原島 良成

上智大学准教授
(放送大学客員准教授) 筑紫 圭一



原島良成准教授



筑紫圭一准教授

放送大学に着任した春、大学院生A氏の指導担当を命ぜられた。A氏は県庁職員で、法治主義を研究したいという。あまりにも壮大なテーマで、とても論文にはならない。そこで手紙を差し上げた。研究の動機は何か、もう少しテーマを絞ったらどうか、といった内容である。ほどなく意欲満々の返信があった。水質保全行政に携わり行政指導の基準を研究したくて入学したが、行政法の知識はないという。彼は足立学習センターまでやって来た。興味ある研究にとりかかるだいたい手前

で、一人で基礎から勉強しなければならない。その困難を思いつつ、本を渡して見送った。行政や規制に関する研究をする院生は少なくないのだから、行政法の素養を身につける講義科目があったら良いのではないか。そうしたら、もう一步、テーマについての考察を深められるのではないだろうか。環境でも教育でも福祉でも衛生でも、行政活動の適正に関心のある全ての院生のために、この科目は作られた。

大学評価・学位授与機構による大学評価機関別認証評価結果について

総合戦略企画室

2004年より、国公立すべての大学等が、7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受ける大学機関別認証評価が始まりました。

放送大学は、2010年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の大学機関別認証評価を受審し、このほど、2011年3月25日に大学評価基準を満たしているという評価を受けました。

評価報告書及び自己評価書については、ホームページで閲覧できます。

■放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/ninsyohyoka.html>

認定マーク



教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生 募集

広報課・学生課

2011年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2011年6月1日(水)～2011年8月31日(水)
可否通知等	2011年6月下旬～2011年9月中旬
学費の納入	2011年6月中旬～2011年9月末
入学許可通知	2011年7月上旬～2011年9月末
印刷教材等の配送	2011年8月下旬～2011年9月末
授業開始	2011年10月1日(土)

・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。

また、2011年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、2011年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。

・出願締切日は2011年8月31日(水)<必着>です。

大学院修士全科生 募集

教務課

放送大学大学院では、2012年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2011年8月19日(金)～2011年9月2日(金) 18:00(必着)
第一次選考(筆記試験)	2011年10月9日(日)
第一次選考可否通知	2011年11月4日(金) 発送
第二次選考(面接試験)	2011年11月26日(土)または2011年11月27日(日)
可否通知等	2011年12月16日(金) 発送
学費の納入	2012年3月上旬～2012年3月中旬
入学許可書・印刷教材等の配送	2012年3月中旬～2012年3月下旬
2012年度授業開始	2012年4月1日(日)

・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。

・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方※が出願できます。

・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。

・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、その後本学大学院に修士全科生として入学した場合、原則として大学院の修了要件として認められます。

※本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、2011年7月22日(金)～8月2日(火)です。詳細は募集要項をご覧ください。

東日本大震災まなびー募金(放送大学学生等向け義援金)のお願い

総務課

放送大学では、4月20日より新たに本学の学生・教職員等で被災された方々を対象に放送大学独自の義援金を募っております。できる限り多くの皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(本義援金は、寄付金控除の対象とはなりません)

くわしくはホームページへ http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itan/2011/230418.html

○銀行振込の場合

千葉銀行 幕張支店 普通預金口座3454779
口座名「放送大学学園 東北地方太平洋沖大震災義援金」

○学習センター持ち込みの場合

各学習センターにお問い合わせください。

編集後記

降る雪や 明治は遠く なりにけり

中村草田男がこの句を詠んだのは、昭和6(1931)年のことです。明治34(1901)年生まれの中村草田男は、この年30歳。母校の小学校を訪問した際に、自身の小学生時代すなわち明治末年を懐かしく思い詠んだようです。

1912年7月30日、明治天皇崩御により改元が行われ、明治45年は大正元年となりました。今年2011年は、ちょうど「大正100年」にあたります。すなわち明治生まれの方は全員、数え年100歳以上になったということになります。昭和さえもが遠くなりつつある現在、大正のさらに前の明治は、静かに遙か遠くへと去りつつあるようです。(前年度編集委員・杉森哲也)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2011年度)

委員長
委員

教授 松村 祥子
教授 井上 洋士
教授 小倉 行雄
教授 高木 保興
教授 草光 俊雄
教授 本多 俊和
教授 松本 忠夫
教授 加藤 浩
准教授 岡崎 友典

編集事務担当

総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp